

新生児聴覚スクリーニング検査の 実施体制と検査状況



埼玉県 保健医療部 健康長寿課

1

1. 新生児聴覚検査実施体制について

(1) 検査のながれ

(2) 公費助成状況・検査実施機関

2. 検査実施状況について

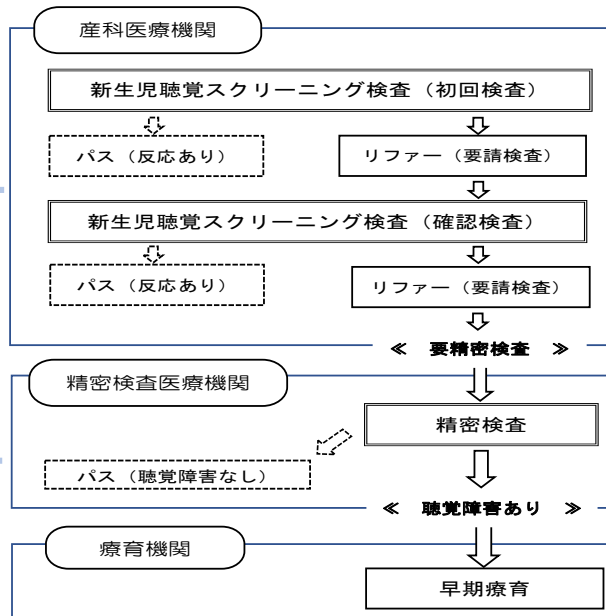
2

1.(1)検査のながれ

市町村こども家庭センター等

①初回検査結果報告
(助成券請求)

②精密検査結果報告



3

①

(1/2)

新生児聴覚検査助成券

(医療機関保管用)

母子健康手帳№			
フリガナ			
母の氏名		児の氏名	
住 所	〒 ()		
母の生年月日	昭和・平成	年	月 日生 (歳)

次の新生児聴覚検査を依頼します。
結果は、下記及び母子健康手帳へ必ず記入してください。
この助成券により、初回検査でかかった費用から
〇〇円（自動ABR検査）／〇〇円（OAE検査）が差し引かれます。
助成額を超えた分については、自己負担となります。

児の生年月日	令和	年	月	日	検査実施月齢	ヵ月
初回検査	検査年月日				検査方法	どちらかに○を付けてください
	結果	右耳	1. パス	2. リファ	左耳	1. パス 2. リファ
	検査年月日	令和	年	月	日	検査方法
再検査	検査年月日				検査方法	どちらかに○を付けてください
	結果	右耳	1. パス	2. リファ	左耳	1. パス 2. リファ
	検査年月日	令和	年	月	日	検査方法

精密検査機関紹介先

市町村への連絡事項

医療機関所在地

医療機関名

医師氏名

<保護者の方へ>

・初回検査に係る費用の一部について公費で負担するものであり、無料券ではありません。（再検査費用は本人負担になります。）
・助成券の額を超えた分について、窓口でお支払いください。
・医療機関と相談の上、新生児聴覚検査実施時にご利用ください。
・児の耳の聞こえについて市町村から連絡させていただくことがあります。医療機関で助成券を使用することにより、市町村への情報提供について、同意したものとみなします。

発行市町村外へ転出された場合には、この助成券の使用はできません。

3年度新生児聴覚

②

新生児聴覚検査精密検査依頼書

(依頼先) 精密検査医療機関 _____ 御中 (依頼元) 新生児聴覚検査実施医療機関 _____

新生児聴覚検査を実施し、結果は下記のとおりです。
精密検査の実施等よろしくお願いします。

対象児氏名 _____
生 年 月 日 _____ 年 _____ 月 _____ 日
保護者氏名 _____
保護者住所 _____

新生児聴覚検査結果 (自動 A B R ・ O A E)

初回検査	(年 月 日)	右耳	Pass	・ Refer I (要再検査)
		左耳	Pass	・ Refer I (要再検査)
再検査	(年 月 日)	右耳	Pass	・ Refer II (要精密検査)
		左耳	Pass	・ Refer II (要精密検査)

新生児聴覚検査精密検査報告書

新生児聴覚検査実施医療機関 _____ 市町村長 _____

精密検査結果について以下のとおり報告します。

精密検査機関での診断結果

診断名		
検査所見	検査日: 年 月 日	検査方法: ABR その他 ()
	検査結果: 右耳	左耳
今後の方針	(1) 治療開始(治療法:)	()
	(2) 療育機関紹介(紹介先:)	()
	(3) 経過観察	今後の方針 ()
備考		

精密検査実施医療機関名 _____ 医師氏名 _____

4

1.(2) 新生児聴覚検査公費助成

・ 県内全市町村で初回検査の公費助成を実施

令和6年度助成額: 自動ABR 5,000円(37自治体)／3,000円(26自治体)

○ A E 3,000円(53自治体)／1,500円(10自治体)

・ 契約状況

県が契約権限の委任を受け契約を実施。

委託契約締結状況 (R6. 10月時点)

県医師会所属機関	82機関
その他県内医療機関	2機関
県助産師会所属機関	14機関
県外医療機関	196機関



5

2. 新生児聴覚検査実施状況

① 初回検査受検者数

年度	出生児数(人) ①	受検者数(人) ②	未受検者数(人) ③	不明(人) ④	受検率(%) ②/①
R 3	47,333	44,311	4,277	2,607	93.6
R 4	44,745	42,928	3,144	1,572	95.9
R 5	43,594	42,450	3,444	800	97.4

※ R3年度、R4年度の①出生児数＝②受検者数＋③未受検者数＋④不明が一致していない理由について
受検者数には転出入者を含め、新生児訪問等により受検状況を把握した児を計上しているため。

② 初回検査

年度	受検者数(人) ②	検査結果(人)			初回検査リファ率(%) ⑥/(⑤+⑥)
		パス ⑤	リファ ⑥	結果不明 ⑦	
R 3	44,311	43,383	671	259	1.52
R 4	42,928	42,072	664	192	1.55
R 5	42,450	41,673	705	72	1.66

6

2. 新生児聴覚検査実施状況

③ 初回検査でリファアとなった児の確認検査状況

年度	初回検査でリファアとなった児(人)	確認検査受検者数(人)	確認検査受検率(%)	検査結果(人)			確認検査リファア率(%)
				パス	リファア(要精検)	結果不明	
	⑥	⑧	⑧/⑥	⑨	⑩	⑪	⑩/(⑨+⑩)
R 3	6 7 1	6 4 2	9 5 . 7	4 0 9	2 2 4	9	3 5 . 4
R 4	6 6 4	6 3 4	9 5 . 5	3 8 9	2 4 5	1	3 8 . 6
R 5	7 0 5	6 6 6	9 4 . 4	4 4 3	2 2 3	0	3 3 . 4

④ 確認検査でリファアとなった児の精密検査状況

年度	確認検査でリファアとなった児(人)	精密検査受検者数(人)	精密検査受検率(%)	検査結果(人)				難聴診断児／出生児数(%)
				正常	両側性・一側性難聴	評価不能	結果不明	
	⑩	⑫	⑫/⑩	⑬	⑭	⑮	⑯	⑭/①
R 3	2 2 4	2 1 7	9 6 . 9	8 4	1 0 8	2 0	5	0 . 2 3
R 4	2 4 5	2 5 4	1 0 3 . 7	1 3 5	1 0 8	7	4	0 . 2 4
R 5	2 2 3	2 1 7	9 7 . 3	9 3	1 0 9	1 1	4	0 . 2 5

7

2. 新生児聴覚検査実施状況

⑤ 精密検査の実施時期

年度	精密検査受検者数(人)	生後3か月以内に精密検査を受検した人数(人)	割合(%)
	⑫	⑬	⑬/⑫
R 3	2 1 7	1 8 5	8 5 . 2
R 4	2 5 4	2 0 5	8 0 . 7
R 5	2 1 7	1 7 6	8 1 . 1

⑥ 療育の開始時期

年度	両側・一側性難聴と診断された児(人)	生後6か月以内に療育を開始した人数	割合(%)
	⑭	⑰	⑰/⑭
R 3	1 0 8	4 3	3 9 . 8
R 4	1 0 8	5 8	5 4 . 2
R 5	1 0 9	3 9	3 5 . 7

※ 3か月以内の精密検査・6か月以内の療育開始が実施できていない理由

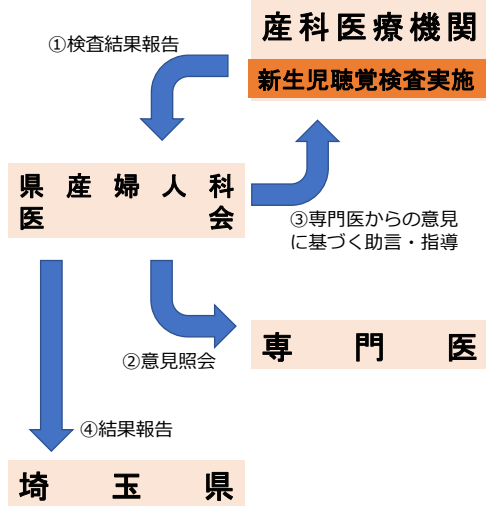
- ・ 早産や低体重児のため、精密検査の実施が困難
- ・ 精密検査実施医療機関で経過観察中
- ・ 現時点での療育は不要との医師の判断があった 等

8

新生児聴覚検査の検査状況・精度管理業務について

産科医療機関等が実施している新生児聴覚検査について、検査実施状況の把握・確認や検査の精度管理を行う。

委託先：（一社）埼玉県産婦人科医会



精度管理の意義

新生児聴覚検査の実施医療機関に対し、検査体制や精度について、助言・指導を行うことで、検査の精度を向上させ、確実に難聴児の早期発見、早期療育に繋げていくもの。

国が示す「難聴児の早期発見・早期療育推進のための基本方針」においても、実施が推奨されており、第7期埼玉県障害者支援計画に掲載されている。

業務内容

- ① 産科医療機関で実施する新生児聴覚検査の以下の事項を確認
 - ・ 検査結果数(両側PASS、要再検査、要精密検査数等)の把握
 - ・ 要再検査（確認検査）率・要精密検査率（検査機器ごと）、検査回数
 - ・ 精密検査機関の受診時期（3か月以内）
- ② 報告結果を基に、専門医に意見照会
- ③ 専門家からの意見を踏まえ、医療機関の検査方法や体制について、実地指導
- ④ 埼玉県に精度管理の結果を報告

9

新生児聴覚検査精度管理・R5年度結果

① 調査対象(分娩取扱施設)数・回答数

種別	施設数	回答あり	回答割合 (%)
周産期センター	12	12	100%
病院	20	18	90%
クリニック	49	44	90%
助産院	13	13	100%
計	94	87	93%

② 検査装置保有状況

種別	2台保有	1台保有			保有せず	ABR 保有率
		ABR	OAE	併用装置		
周産期センター	3	8	—	1	—	100%
病院	0	15	1	2	—	94%
クリニック	3	39	—	1	1	98%
助産院	0	11	—	—	2	85%
計	6	73	1	4	3	95%

10

種別	分娩数	出生児数	聴覚スクリーニング 検査実施数
周産期センター	3 2 4 1	3 3 8 3	3 3 2 3
病院	6 9 0 8	6 9 0 2	7 0 3 2
クリニック	9 1 2 5	9 1 1 3	8 9 1 4
助産院	7 0	7 0	7 1
計	1 9 3 4 4	1 9 4 6 8	1 9 3 4 0

種別	聴覚検査 実施数	初回検査 PASS	初回検査Refer		
			右	左	両
周産期セン ター	3 0 1 8	2 9 4 9	2 4	2 4	1 6
病院	7 0 3 2	6 6 1 1	1 4 9	1 9 8	7 7
クリニック	8 3 9 5	8 2 0 4	6 0	8 6	3 2
助産院	6 8	6 5	2	1	0
計	1 8 5 1 3	1 7 8 2 9	2 3 5	3 0 9	1 2 5

11

種別	再検査者	再検査 PASS	再検査 Refer	要精密検査
周産期センター	5 5	3 4	2 1	2 6
病院	2 9 7	2 3 0	6 7	3 7
クリニック	1 9 2	1 3 6	4 1	4 4
助産院	3	3	0	0
計	5 4 7	4 0 3	1 2 9	1 0 7

種別	要精密検査者	受診結果		精検中 結果未	受診せず
		正常	難聴		
周産期センター	2 6	1 3	1 0	3	0
病院	3 7	1 7	1 6	2	2 (予定あり)
クリニック	4 4	2 9	1 1	4	0
助産院	0	0	0	0	0
計	1 0 7	5 9	3 7	9	2

12

新生児聴覚検査精度管理・R5年度結果

⑦ 新生児聴覚スクリーニング検査の精度管理

種別	平均初回 PASS率	初回PASS率の 範囲	初回PASS率 90%未満の施設
周産期センター	97.7%	93.4-99.7	0
病院	94.0%	71.8-100	4
クリニック	97.7%	89.6-100	2
助産院	95.6%	90.3-100	0
計	96.3%	—	6

⑧ 初回PASS率の低い6施設

種別	検査法	新生児聴覚 検査数	初回検査の PASS数	初回PASS率
A病院	OAE	78	56	71.8%
B病院	ABR	185	166	89.7%
C病院	ABR	225	199	88.4%
D病院	ABR	1449	1235	85.2%
Eクリニック	ABR	276	248	89.9%
Fクリニック	ABR	289	259	89.6%

13

新生児聴覚検査精度管理・R5年度結果

⑨ 耳鼻科医師、県産婦人科医会内での協議

- (1) 耳鼻科医師より
 - ・要精密検査児の受診状況が明らかとなったことを評価
 - ・精度管理の方法は初回PASS率の比較が妥当
 - ・PASS率の低い(表⑧の)A病院について確認が必要
- (2) 県産婦人科医会より
 - ・特別委員会で結果説明、最終評価。
 - ・結果として特別委員会委員2名がA病院に訪問調査

⑩ A病院の調査結果

- (1) 訪問前の製造元検査では異常なし
- (2) 2023年1～6月に本体から患者につなぐプローブに不調があり、
2024年1月に交換後はPASS率が改善していること調査で明らかになったことで、プローブ不具合が原因の可能性が高いことが判明。
- (3) 同様の事例があればプローブ交換対応するよう指導、ABR検査への変更を院内で検討

14

新生児聴覚検査精度管理・R5年度結果

⑪ 総括

- ・県内の分娩施設のほぼ全てで検査は適切に実施
- ・要精密検査者は、受診予定も含めて全例が専門施設での精密検査を受診、かつ確実に療育に繋がられている。
- ・本体部分だけでなくプローブの定期点検・交換の重要性が明白に。
- ・県産婦人科医会調査担当者の所感としては、確実な受診につなげるために、本調査の継続を提案。